

まぐるから見える世界

(社)責任あるまぐる漁業推進機構専務 原田雄一郎

今年の築地市場の初セリで222キのクロマグロが1億5440万円でセリ落とされた。外国でも写真入りで報道された。去年の初セリ値段も破格で、世界的に報道されたが、今年の価格はその3倍。あまりに、想像を絶するレベルのため

世界はどう見たか？

築地マグロ初セリ



か、今年の外国の報道は、事実を淡々と伝えるトーンに変わっているように感じられた。もちろん、いつもの

源の衰退を憂慮するコメントもあわせて掲載されている。太平洋クロマグロのみでなく、東大西洋のクロマグロについても言及し、その乱獲状態が続いているのになすすべもないとの彼らの嘆きに共感する読者もいるだろう

は「補足している。また、外国の報道は、世界のクロマグロの80%を日本が消費しているとの決まり文句で締めている。これで、読者の多くは、クロマグロ資源衰退と日本の結びつきを印象づけられる。

責任を全うしなければ約8万3000トンまで増加する」との試算を示し、東部太平洋、中部太平洋のいずれの水産物においても、規制の実施が資源回復の前提条件と明記している。

◆見逃されている

輸出国の責任

外国のマグロ報道が、日本へマグロを輸出する国の責任についても触れていることはほとんどない。最大の輸入国である日本が厳格な監視体制をとり、I-UU漁業(管理措置)は、輸入国と輸出国の双方がおのおのの管理

◆規制が回復の前提

太平洋クロマグロ

求められる日本

物の輸出にあたって、違法な国際取引が行われないように国内業者の監視・取り締まりを万全に行うことが求められる。マグロ資源の保存・管理措置を有効にするものとするために、輸入国と輸出国の獲量制限を実施すれば、2030年までに、太平洋クロマグロの資源は、最大の消費国たる日本が握っていた。記事の見出しは、「資源、過去最低の水準」、他紙は、「2030年に3.6倍」

(毎月1回掲載)